

経営比較分析表（平成28年度決算）

徳島県 小松島市

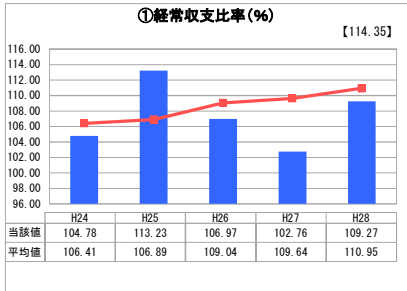
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	53.02	95.46	2,095	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
39,110	45.37	862.02
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
37,054	39.60	935.71

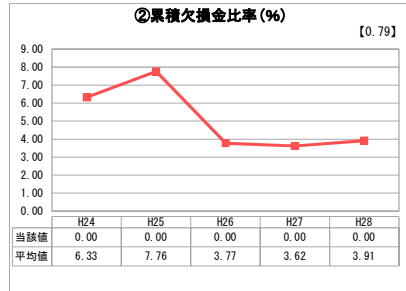
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

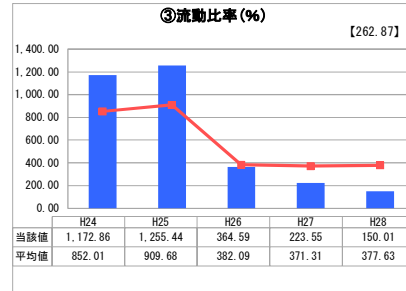
1. 経営の健全性・効率性



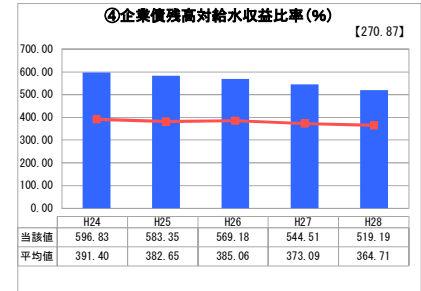
「経常損益」



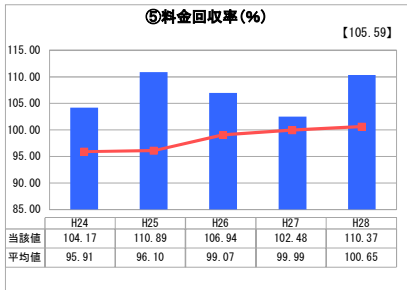
「累積欠損」



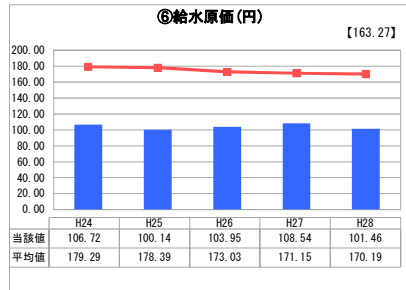
「支払能力」



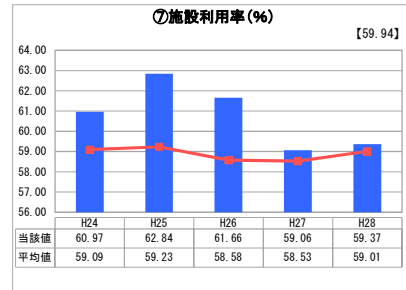
「債務残高」



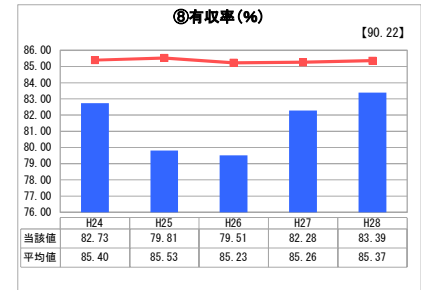
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

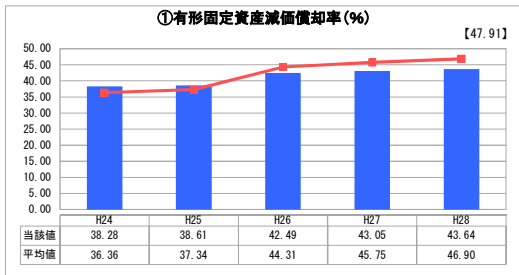


「施設の効率性」

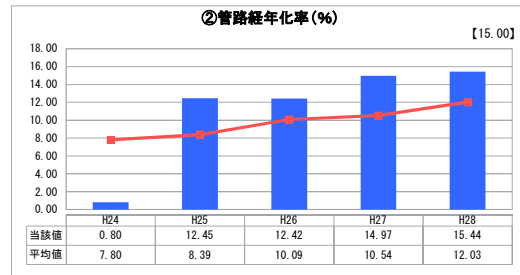


「供給した配水量の効率性」

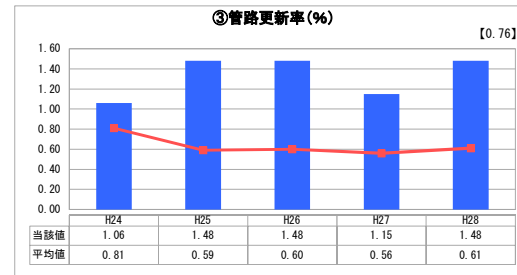
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
100%以上で黒字収支が続いており、健全性を保っているが、類似団体平均値を下回っており、更なる費用削減等の取組が必要である。

② 累積欠損比率
0%で累積欠損金は発生しておらず、経営の健全性を保っている。

③ 流動比率
近年、企業債借入れの抑制に伴い、資金が減少したことが要因となり、過去の数値より低い値となっている。今後、大規模な水道施設整備、更新事業を予定しており、企業債は増加の見込みであるため、注視する必要がある。

④ 企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値を上回っており、今後も大規模投資による企業債発行の増加が見込まれるため、継続的に水道料金の妥当性を検証し、状況に応じた料金改定が必要である。

⑤ 料金回収率
100%以上で給水に係る費用が給水収益で賄えていて、類似団体平均値を上回っている。これは、類似団体に比べ、料金水準が低いと考えられる。

⑥ 給水原価
有収水量1mあたりに係る費用は、類似団体平均値を下回っている。これは、本市の水源が豊富で良質な地下水であるため、浄水施設が簡素で済むためと考えられる。

⑦ 施設利用率
一日配水能力に対する一日平均配水量の割合は、類似団体平均値を上回っており、施設の利用状況や規模が適正であると考えられる。今後は、給水人口の減少を踏まえ、適正な施設規模への見直しを検討していく必要がある。

⑧ 有収率
年々増加傾向にあるが、類似団体平均値を下回っている。主な原因は、漏水等であると考えられることから、施設の稼働状況を収益に十分反映できるように、引き続き老朽管更新事業を推進し、有収率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
資産の老朽化度を示す指標で、類似団体平均値を下回っている。類似団体に比べ、保有している資産が法定耐用年数に近づいている割合が低いと考えられるが、今後は財源の確保を踏まえた施設の更新が必要である。

② 管路経年化率
管路の老朽化度を示す指標で、類似団体平均値を上回っており、年々増加傾向にある。管路の老朽化が進んでいる状況である。

③ 管路更新率
当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、類似団体平均値を上回っている。各年度における更新は進んでいるといえるが、この更新ペースでは長期間かかってしまうため、更新施設の優先順位に配慮し、計画的かつ効率的な更新に取り組む必要がある。

全体総括

現在のところ経営状況は良好であるが、人口減少に伴う給水収益の減少、水道施設の老朽化による更新や耐震化に要する費用の増加等の要因から今後も本市水道事業の経営は厳しい状況が見込まれる。そのような状況でも、市民や事業者等に「安全で良質な水道水を安定して供給する」責務を果たすべく、今後においては、平成28年度に策定した「小松島市水道事業経営計画(経営戦略)」に基づき、適切な水道事業運営に取り組んでいく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。